

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・理解確認の場面で、形や色の特徴や用具の使い方をミニ教材で試した後、分かったことをペアで確かめたり、教え合ったりすることで知識・技能の定着につなげることができた。
- ・振り返りや友達の作品を見合う場面で学習用タブレットを活用して、意見や感想を共有することができた。

(2) 課題

- ・児童の理解確認の場面で、習得につながる指導を工夫する必要がある。
- ・題材の目標としている発想や構想の力を高める指導を工夫する必要がある。
- ・学習用タブレットを効果的に活用させるための手立てを多く知る必要がある。

Ⅱ 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・素材の特徴や用具の使い方について、ミニ教材をつくったり、ペアでポイントの確認をしたりすることを通して理解させる場面を繰り返し設定する。	・楽しく発想・構想することができるよう、話し合いの場面を多く設定したり、振り返りの場面で互いの作品の良さを認め合ったりする時間を設定する。	・素材との出会いを大切に、発見や喜びを感じることができるよう、十分に慣れさせる場面を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・素材の特徴を理解し表現の幅を広げるために、ミニ教材をつくったり、ペアでポイントを確認したりすることを通して理解確認する場面を十分に設ける。	・豊かに発想・構想することができるよう、学習カードに考えを書き出したり、話し合い活動で発想を広げさせたりする。また、学習用タブレットで振り返りを共有したり、互いの作品の良さを認め合ったりする時間を設定する。	・素材の良さを理解する場面を多くとり、良さを生かすためにはどうしたらよいかを考えさせ制作の意欲につなげていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の表現したいものに合わせて、既習で得た技法をミニ教材で試しながら、作品に取り入れていく。 ・新しい用具や素材を使うときは、ミニ教材を取り入れ、試行錯誤する場面を取り入れ、ペアでポイントについて話し合い理解確認を行っていく。	・創造的に発想・構想ができるように、学習カードに考えを書き出す際、学習用タブレットで調べたり、書籍で調べたりして、具体的な表現につながる支援を行う。また、学習用タブレットで作品を共有することで、互いの表現の良さを認め、自分の表現に取り入れったりつなげたりする活動を繰り返し設定する。	・題材全体の活動の流れを提示することで、見通しを持ち、自己調整をしやすくする。また、児童の表したい表現につながるように用具や材料、資料をそろえておく。